

厳しい中にも、明るいうちを



【こしき保育所】
 認可定員 120人
 敷地面積 5,883㎡
 建物面積 1,882㎡
 建物構造 鉄骨造平屋建

平成19年度の町の取り組み

健康で安心して暮らせるまちづくり	
こしき保育所改築事業	5億582万円
住みよさを感じるまちの推進	
伯耆町溝口駅前周辺整備事業	7,685万円
ごみ集積所整備事業	140万円
伯耆町型バス事業	7,411万円
溝口統合簡易水道事業	2億9,393万円
地域産業を育むまちの推進	
堆肥センター増築事業	873万円
豊かな心が育つまちの推進	
中学校少人数(33人)学級	1,354万円
住民と行政による協働のまちづくりの推進	
協働のまちづくり推進事業	22万円

町民の皆さんが納めた税金や負担金のほか、国や県からの交付金や補助金などは、皆さんの生活をよりよいものにするために使われています。平成19年度に、どのくらいのお金が納められ、どのように使われているのかまとめました。

健全で継続可能な財政運営を

黒字決算

平成19年度の伯耆町一般会計決算額は、歳入が69億897万円(対前年度1・2%増)、歳出が66億4,710万円(対前年度1・4%増)となり歳入と歳出の差し引きである実質収支は2億6,187万円、単年度実質収支は1,986万円となりました。



伯耆町は、国の「頑張る地方応援プログラム」などを活用して魅力ある町づくりに取り組み、国からの支援を受けて新たな収入を確保するとともに、人件費抑制と、経費節減に努め、公共施設を民間業者に委託するなど支出の削減を行いました。また、昨年度に引き続き施設の維持管理など毎年必要となる事業・経費を見直すことで若干、健全化が図られました。財政状況は依然厳しいと言えます。

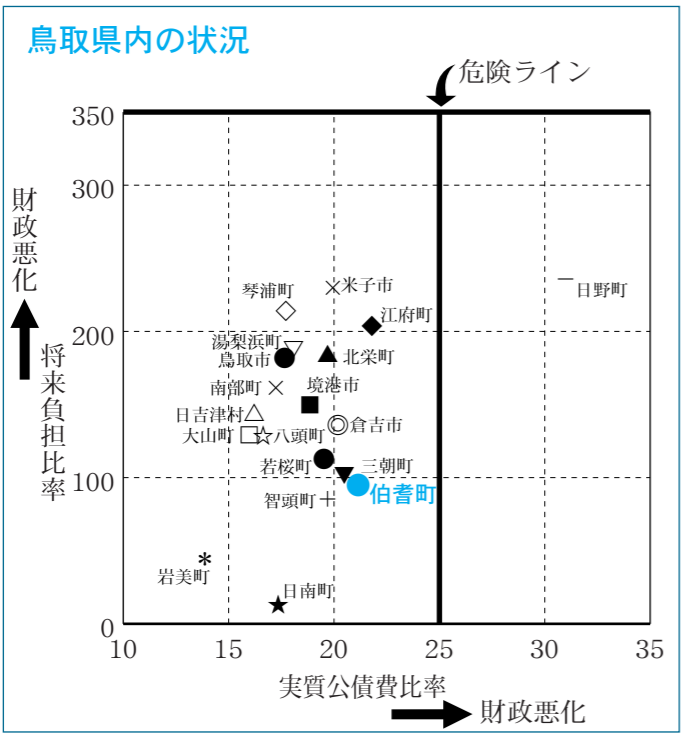


▲民間業者が管理するゆうあいパル

(単位:%)

指標	説明	伯耆町の率	早期健全化基準	財政再生基準
実質赤字比率	町の収入に占める一般会計赤字の割合。	-	15.0	20.0
連結実質赤字比率	町の収入に占める全会計の赤字総額の割合。	-	20.0	40.0
実質公債費比率	町の収入などに占める借金返済額の割合。	21.1	25.0	35.0
将来負担比率	町の収入などに占める町が将来負担する可能性のある債務(借金)の割合。	96.1	350.0	-

【健全化判断指標】
 左の表は、国が自治体の財政を明らかにし、財政の悪化状況を見極めるために平成19年度から公表を定めた指標です。財政状況の悪化が初期段階の「早期健全化団体」と、悪化が深刻化した「財政再生団体」の2段階となっています。



将来への負担少なく 計画的な資金運用
 伯耆町の平成19年度決算の健全化判断指標は上表のとおりです。今回、黒字決算のため実質赤字比率と連結実質赤字比率はありません。実質公債費比率は、早期健全化基準を下回っていますが、県内では、3番目に高い割合となっています。兆しとなっています。

これは、現在多額の借金返済を行っているため、繰上げ返済し、借金を減らす見込みです。将来負担比率は基準を大きく下回り、県内市町村の中でも4番目に負担比率が少なく、将来にわたっての負債が少ないと示しており、明るい兆しとなっています。